

胆管チューブステント『UMIDAS NB ステント』を発売 内視鏡的胆管ドレナージ※1と内視鏡的経鼻胆管ドレナージ※2を組み合わせた 2in1 デバイス

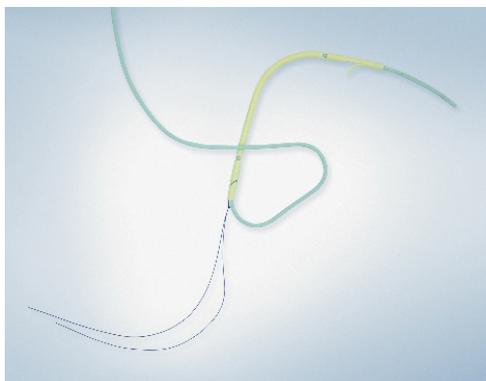
オリンパス株式会社（取締役 代表執行役 社長兼 CEO:竹内康雄）は、閉塞性黄疸※3などのドレナージ治療に用いる胆管チューブステント「UMIDAS NB ステント（ウミダス エヌビー ステント）」を2020年12月4日（金）から日本国内で発売します。

本製品は、口から挿入した十二指腸内視鏡を通じて十二指腸乳頭部から胆管にアプローチする内視鏡処置具のひとつで、胆石や腫瘍などの圧迫によって狭くなった胆管を広げて胆汁の流れを改善するために用いられます。内視鏡的胆管ドレナージ（以下、EBS）と内視鏡的経鼻胆管ドレナージ（以下、ENBD）を組み合わせることで、従来必要だったステントの入れ替えを不要とし、2度行っていた内視鏡手技を1度で行うことを可能としました。これにより、医師・患者さんの負担軽減に貢献することが期待されます。

※1 胆管の十二指腸への出口である十二指腸乳頭にドレナージチューブ（細い排出用の管）を挿入し、胆汁の流れを維持する方法。

※2 十二指腸乳頭に挿入したドレナージチューブを鼻腔まで通し、胆汁を鼻から体外に出す方法。

※3 胆管がつまって本来胆管外に排出される胆汁が血液の中に逆流することで、血中のビリルビンが増加し、白目や皮膚が黄色くなる症状。長引くと、肝臓などの臓器障害や胆管炎を引き起こし重篤な状態に陥ることもある。



「UMIDAS NB ステント」

●発売の概要

販売名	発売日
UMIDAS NB ステント	2020年12月4日

●主な特長

1. EBSとENBDを組み合わせた2in1デバイス
2. 食物残渣付着によるステント閉塞のリスクを低減するインサイドステントを採用

製造元はシルックス㈱、製造販売元はUMIDAS(株)です。

●発売の背景

閉塞性黄疸は胆管が閉塞し胆汁を胆管外へ排出できなくなることで発症します。胆管を閉塞させる要因のひとつである胆管がんや胆石の症例数は、近年の高齢化に伴い増加傾向にあります。

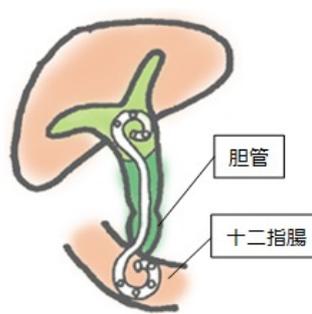
閉塞性黄疸などの治療には、胆管から鼻孔に長いチューブステントを繋ぎ体外へ胆汁を排出させる ENBD と、短いチューブステントを体内に留置し胆管から十二指腸へ胆汁を排出させる EBS があります。一般的に初期治療時は胆汁の性状や量の判定が行いやすい ENBD を使用されることが多い一方、患者さんにとっては、鼻からチューブが出ていることによる事故抜去^{※4}の恐れもあり、また日常生活への支障や不快感が大きくなります。そのため、後日 EBS へ切り替えるため再度内視鏡手技を伴うことがあります。

本製品は EBS と ENBD を組み合わせた 2in1 の胆管チューブステントのため、新たなステントへの入れ替えが不要です。ENBD は内視鏡を用いずに X 線の透視下で抜去できるため、従来行っていた 2 度の内視鏡手技を 1 度に行うことができます。これにより、医師・患者さんの負担軽減に貢献することが期待されます。

※4 患者さん自身がチューブを抜いてしまう、もしくは固定不良や牽引などによりチューブが不意に抜けてしまうこと。



ENBD イメージ



EBS イメージ

●主な特長の詳細

1. EBS と ENBD を組み合わせた 2in1 デバイス

本製品は、EBS と ENBD を組み合わせた 2in1 の胆管チューブステントです。ENBD から EBS に切り替える内視鏡手技が不要となり、医師・患者さんの負担軽減に貢献することが期待されます。

2. 食物残渣付着によるステント閉塞のリスクを低減するインサイドステントを採用

EBS において主流であるアウトサイドステント^{※5}は、食物残渣の付着によりステントが閉塞するリスクや留置のため十二指腸乳頭を切開しなければならないという課題がありました。本製品はステントを十二指腸乳頭から出さずに胆管内に留置するインサイドステントを採用しています。これにより、十二指腸乳頭の切開が不要となり乳頭機能温存に貢献し、食物残渣がステントに付着し閉塞してしまうリスク低減をサポートします。

※5 十二指腸乳頭から先端を少し出すかたちで留置するステントのこと。

本リリースに掲載されている社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。

オリンパスの治療機器事業について

オリンパスの治療機器事業は、医療分野における革新的な技術と製造技術で医療従事者のみなさまとともに歩んでまいりました。診断そして低侵襲治療において、より良い臨床結果を生み、医療経済にベネフィットをもたらし、世界の人々の健康や QOL 向上に貢献してまいります。ポリープ切除用のスネア開発に始まり、外科用デバイスの開発や処置具のラインアップの拡充などを経て、様々な製品が疾患の予防、診断、治療に役立っています。詳しくは、www.olympus.co.jp/ をご覧ください。